

大学院生シンポジウム GS05

学部融合が切り拓く、がん診断・治療の新展開を目指して ～多学部からのがん診断・治療へのアプローチ～

Interdisciplinary Studies Opens up New Evolution of Cancer Diagnosis and Therapy —Approach to Cancer Field from Multi-Department—

尚山 堅士郎¹, 浅井 歩²

¹九大院工, ²名城大薬

日本における死因の一位を占める“がん”は、世界においても感染症、心疾患に次ぐ、我々人類にとって最大の脅威である。治療効率を飛躍的に向上させるためには、正確ながんの診断法ならびに治療法の開発が必要であり、薬学系のみならず工学系や農学系などの様々な分野から各分野の強みを活かしたアプローチが行われている。それらの研究成果について多分野の研究者で議論することは、新たな思考の会得や相互理解を可能とし、今後の研究において新たな研究戦略を見出すことのできる重要な機会である。分野の垣根を越えた融合によって、これまで以上の良質な診断・治療法の開発が期待され、これからの当該分野のさらなる発展に大きく寄与すると考えられる。

本シンポジウムでは、各分野の強みを活かしたがん診断・治療について、薬学・工学・農学系の大学院生5名が講演を行う。本シンポジウムを通して、他の学部の大学院生との活発なディスカッションや交流を図り、より幅広い知識・思考を会得することで、若手研究者の成長、さらには当該分野の発展の一端となることを期待する。